令和6年第10回田上町教育委員会定例会会議録

1. 開会年月日 令和6年10月24日 午後2時00分
2. 開会場所 田上町役場 会議室2
3. 出席委員 教育長 首藤 和明
教育委員（教育長職務代理者） 石田 一平
教育委員 山田 正夫、齋藤 美里、渡邊 悦子
4. 欠席委員 なし
5. 職務のため出席した者
事務局長 時田 雅之、管理指導主事 中野 國芳、局長補佐 諸橋 弘樹
6. 会議に付した事件
 - (1) 教職員人事異動方針について
 - (2) 諸報告
 - (3) その他
7. 会議の経過及び結果
令和6年10月24日午後2時00分、令和6年第10回田上町教育委員会定例会の開会を宣言した。本会期を1日と提案し、了承され決定した。本日の会議録署名委員に齋藤委員を指名した。

教育長 議事に入ります。

初めに、教職員人事異動方針について、説明お願いいたします。

管理指導主事 はい、じゃあ担当ということで。手元に資料が上がっておりますが、最初に令和6年度末・7年度初教職員の人事異動と書いてある資料から説明をさせていただきます。今年度末の教職員の人事異動ということでもあります。これについては、昨年度と大きく変更がございません。県が言っているのは、人事異動方針のポイントとしては、C地域またはD地域というところ。25kmを超える平場のところと、通勤が困難なところ。これをD地域というわけですが、こちらへ引き続き、積極的に配置を進めます。採用後、6年勤務の方は、新採用と言われる方々ですが、6年勤務後は普通のA地域の勤務を基本としますが、45歳までにC地域またはD地域に1回勤務してくださいというのが方針だということでもあります。これも昨年度と変わりありません。それから2

番目であります、(2) のところです。教員確保困難地域での中堅教員確保に努めますということで、中段に四角で括られている、上越の糸魚川、妙高、中越においては、いわゆる北魚、南魚、中魚と言われていたところ、下越においては、村上、阿賀、関川、粟島浦、佐渡地域は佐渡市というところが、教員確保困難地域ということでもあります。この地域においては、教員確保が難しいということから、積極的に進めますというのが今年度の言い方です。それから同一校 5 年以上の勤務者は、原則として県が転配置しますということで、1 校に 5 年以上となった場合は、基本的に移動です。ただし、学校の特別な事情、田上町でも、例えば特別支援学級を受け持っている優秀な先生がいらっしゃると、その先生が移動されると特別支援の方が滞るといような場合は、学校が申請書というのを出して残っていただくようにする。あるいは、ご家庭で特別な理由があって、どうしても 5 年ではなく、6 年 7 年と家族の色々な対応をする必要があるので、申立書というものを提出して残りたいというふうなことを希望する。申立書は個人の方の希望であり、申請書は学校の都合でということで、希望を出すと 5 年過ぎても勤務することはできるということでもあります。それから 4 番目、自宅の精査を継続しますということを言っています。自宅なんて変わるわけないと思うんですが、勤務をされる時に結婚や、あるいは他県から勤務されてこちらに家を建てられる方などがいらっしゃいます。そういうこともあるものですから、県の方では原則として、勤務 2 校目終了までに自宅を県内に定めましょうということを言っています。しかし、そうは言いながらも、異動の基準を見ていると、C 地域が続くような人も中にはいるというようなことから、やはり異動基準の自宅ということについて、申請だけでなく、校長とよく相談して精査して決めましょうというのが、資料に書いてあります。具体的には、本人の所有、または所有になるだろう住居があること、アパートであっても長期にわたって居住し、または居住しようとする場合、あるいは親と一緒に住んでいる、そこに借家として入っているというような場合もあるということです。これらのことを、自宅と言っていることになります。それから、(5) は当然ですが、妊娠や育児に伴う教職員の働き方の選択肢を広げますということで、これはずっと言われ

ていることでもあります。そこにある通りであります。実働2年あれば、育休があったとしても、そこで勤務を1回終了したことにしましょうという言い方であります。6番、7番は、特別な場合ということですので、ご覧いただければいいかなと思います。8番は、複数校種の免許状を所有する者は、積極的に異校種へということで、中学校の先生が高校の免許を持っていれば、高校に行くこともあります。小学校の先生が中学校の免許を持っていれば、小学校採用であっても、中学校に行くこともあるというようなことでもあります。なかなかないんですが、そういうこともありますよということです。それから9番目、㊦登録の教員というのが出ています。これは言語通級教室とか、難聴通級教室とか、こういう教室の指導者は、実は県内になかなか専門家がいません。したがって、その人達を育成するために、手を挙げた方々にそういうところを目指しますか、そういうのを目指す方々は、その登録をして1年間近隣の学校に行ったりして研修をしたら、通級教室の担当者になれるという方式です。この方式で、隣の加茂市では言語通級教室というのを作っているわけですが、増やすような時にはこういう教室を通さないと、なかなかそういった人材を増やすことができないということでもあります。

田上町も、言語通級や難聴通級じゃなくて、発達通級ということについて、来年度はぜひ作っていききたいということで、これに似た制度がありまして、それに基づいて田上町の先生方に勉強してくださいということで、将来、通級教室を作ろうということで、今進めているところです。

次3ページ目に行きます。公募制というのがあります。特色ある活動を続ける時に、県の方に申請をすると、全県下からそれを目指してくるという場合、田上町の場合は1町1校ですので、例えば中学校の先生で公募制により田上町の学校に希望しますというと、田上中学校にピンポイントで来ることができるということでもあります。このような制度があるということで、今年も田上町は手を挙げてお願いしているところでもあります。11番は特別支援学校の寄宿舎等とのことですので省略します。

定年延長に伴う役職定年。これは60歳を迎えた校長、教頭です。こ

それらの方々は、60歳を迎えると基本は教諭になりますよということでもあります。今年はその該当ありません。13番、定年延長に伴う今後の定年年齢ということでもあります。去年も出ていたんですが、具体的に言うと、61歳の方は今年の末に定年ということで、定年退職ができます。ところが、今年60歳の方は、来年は定年退職できません。62歳にならないと定年退職にならないということですね。59歳の方はさらにもうちょっと後になって、令和10年にならないと定年退職できません。したがって、来年度末は、定年退職者がいないということになります。61歳の時には定年にならないわけですので、来年は定年退職者がいないということになります。というふうに、年によって定年退職者がいないということになります。ただ、定年前退職ということはある得ますので、その方は申し出て退職という形を取ることができます。それから、年齢区分に応じた人事異動の基準というのが出ていますが、これも今まで言ってきたことなので省略いたします。基本的には3月10日以降にならないと、異動についてはお伝えできませんと県の方で言っています。

前に戻るんですけど、令和7年度末・8年度初の人事異動についてというのがリーフレットに載っています。これは来年の話なんですが、大きな変更があるので早めに提案をしています。どういうふうな大きな特色があるのかというと、はっきり言うと昔あったC・D地域みたいなものを、また復活していくことになります。ただ言い方をC・Dとすると混乱を受けるので、CとかDじゃなくてEとFということにします。25km未満はA地域というし、25から35kmはE地域という、昔のB地域みたいなものですね。それから35km以上はF地域という、昔のD地域みたいな。このような地域分けをしていくというのがまず一つです。それから、異動基準においては、全県採用枠の教員と魚沼枠の採用の人達、佐渡枠採用の人達などが、その採用の枠によって人事異動の方向を少しずつ変えていきます、ということを行っています。なんでそんなことになるんだという話になるわけですが、実は県の方で統計を取っているところなんですが、今異動をいろいろ進めています。ところが、例えば教員確保困難地域と言われるところは、1校目、2校目で、いわゆる採用1・2校目の職員が、魚沼地域や教員確保困難

地域は、小学校で41.8%、中学校は47.8%、ほぼ半分です。長岡市はどうかというと、長岡市は小学校で22%、中学校で23%ということで、1/4から1/5くらいの学校で新採用がいるという形になります。後半の採用5校目から8校目の教員、いわゆるベテランという方ですね。これが、魚沼地域では小学校で3.4%、中学校では6.4%となるということで、非常に少ないと。大体ですが、小学校でいうと半分近くにしかないという状況だということなんです。そんなことから、需給のアンバランスがあることから、教員確保困難地域の人達については、なるべく今A地域の人達も動いてもらう。動いてもらって、尚且つ教員確保困難地域に1回くらいは行ってくださいませかというのが今回の新しい方式になるということです。昔もそんなことを言っていたわけですが、これが今度、新たに言われているのが、E地域、いわゆる25から35kmは1回、35km以上は1回、これを遅くとも44歳までの間に行ってください。その後、45歳から60歳までの間に、自分が行ったところ以外のところに1回行ってくださいというのが大きな方向転換です。また、もう一つ、これも昔言われていたんですけども、同一市町村に10年を超えた連続勤務や、同一市町村に3校連続して勤務することは認めません、ということを行っています。ただし、例外措置はあります。いわゆるこの田上地区や加茂地区、こういうところは今言ったような、教員確保困難地域に1回は行ってくださいという言い方をしているのです。では、魚沼地域などの教員確保困難地域はどうするのか。

(2)にあるんですけども、魚沼枠採用教諭というところがあります。2番の(2)のところですけど、魚沼地域も北エリア、南エリア、中エリア、いわゆる北魚、南魚、中魚といったところが、そういう言い方に変ったということですね。それらのところは、採用後、魚沼枠の人達は、最初この3つのうちのどこかを希望地として出すわけですけども、希望地については第2希望まで認めますから、この3つの中のどこかに行ってくださいということです。そして、採用後6年間の間に、3エリアのうち2つのエリアに行ってください。だから、南魚、南魚とはならない。南魚に行ったら中魚か北魚へ行ってください、という言い方になってます。それから、同一エリアに10年を超えた連続勤務を認めないということですから、3校目以降も同じところの市町村内

で回るということは、もう駄目です。

特別支援学校教諭については、先ほど説明したことと同じような形であります。

61 歳以上の正規教職員の方々は、暫定再任用及び定年前再任用短時間勤務になる人もいらっしゃる。これらの方々は異動基準の対象外になります。なぜ、こんなことを言っているのかというと、60 歳から 65 歳までの人は、1 年ごとに勤務地が変わったりすることがある人達なので、そういう人達については、45 歳までにどこへ、44 歳までにどこへ行きなさいということは言いませんということです。それらの人達は、C・D 地域へはもう十分行っているからということです。ただし、年齢が高くて 1 校目、2 校目の人はいますから、そういう人は個々に配慮しなきゃならないということになります。特例措置ということで、それぞれ色々な特例があります。非常に複雑ですが、これは個々の先生方によって、それぞれ違うので、ご覧になっていただければと思います。ただ、佐渡市と粟島浦村だけは、やはり行く人が少ないということで、新採用も含めて 1 回でも行ったら、その人達はずっと A 地域に行ってもいいですよ。すごい特例ですよ。そういう特例を入れています。それぐらい、やっぱり希望者がいないんだなということがあります。それから、㊦勤務というのが出ています。これは、昔の㊧勤務のことのようなものです。中堅教諭の人は優遇しますという措置が入っています。あと、キャリア研修制度というものが始まります。魚沼地域の人達、佐渡地域の人達は、その枠で採用されたら、ずっと 30 年間その地域にいたとすると、他所へ出て研修することができる機会が減る。それでは上手くない。そういう人達は、特別な研修を一生懸命やってる学校とか、特別な生徒指導を一生懸命やってるっていうような、非常に頑張ってる学校に 1 回行って、そして勉強したら戻ってくるという制度。これが、キャリアアップ研修制度というものです。こういうものが、令和 7 年度末・8 年度初に入ってくるということです。

あとは、今まで 40 歳以上の新採用が何人もいるんですが、採用後、1 校目勤務の時点で 45 歳以上の人達、こういう人達は 2 校は僻地の勤務をしてくださいとしているんですけど、そういう言い方ではなくなっていくということです。県が指定したところに行きなさいというの

は、今まで新採用は 2 校目までだったんです。ところが今度は、今もそうなんですけど、1 校目、例えば 40 何歳になる、2 校目、40 何歳になるという人は、2 校目以降、60 歳までにⒻ地域へ 1 回行けばいいとか、それ以降は一般移動として考えてもいいというようなことにしていくということです。実はこれ、今までは明文化されていなかったんです。来年からは、これを明文化したことによって、その枠できちんと進めますというのが新たな方針だということです。

他にもいくつかあるんですが、めばしいところをここで説明させてもらいました。以上であります。

教育長

ありがとうございます。二つありますので、まず今年度末の異動に関わって、いかがでしょうか。今年度末は、今までとあまり変わらないということです。ただ、今年度希望するかどうかも、来年度末の移動のことも考えながら、選んでくれということで資料として出しているということです。よろしくお願い致します。この点に従って、校長先生が各教職員と個別のヒアリングをしていくという形になっていきます。説明会が終わりましたので、今ヒアリングをしている最中ですが、実際に始まっておりますので、聞きながら検討していきたいと思っております。残念ながら転出をしなければいけない教職員に対しては、今までありがとうございましたとお伝えし、なるべく優秀な教員を引っ張ってきたいということで。田上町の場合は、田上の 12 か年教育をやってみませんかということで公募していますので、ぜひやりたいという人を呼んできたいということであります。

石田委員

確か、何年か前に 12 か年教育に興味があると言って、公募してきた先生がおられましたよね。

管理指導主事

いらっしゃいました。

石田委員

あれ以降はなしでしたか。

管理指導主事

去年はなかったです。

石田委員

佐渡、粟島浦というのは、特待ですよ。1 回行ってれば、ずっと A でもいいというのは。でも、それだけリスクーなんですか。

管理指導主事

正直な話しますと、1 校目が終わった時に、大概の初任者は A 地域に行くわけですよ。ところが 2 校目の異動といった時に、もしかすると佐渡に行くかもしれないというのが怖くて、新潟市に流れる人がいるの

ではないかということが県でも言われ始めたんです。特に下越地方は、あちらこちらで声が聞こえてきて。そんな状況があるものですから、そんなに佐渡や粟島浦を避けてはだめだよというのがあってということころでしょうかね。

教育長

出身者と出願者のアンバランスがあることは、確かにそうですね。佐渡市出身で教員になりたいという人がいっぱいいれば問題ないんだけど、あんまりいないということなのかもしれません。それから、今の教員の身分を持ったまま、新潟市を受験できますので。でも、新潟市の人も同じ制度があって、新潟市の教職員でいて、新潟県の方を受けることは可能なんですけど、ほとんどいません。

そろそろ、いろんな仕事をしてもらおうかなと思ってはいたけれど、ふっといなくなってしまう人がいるのも確かです。

では、(1)については終了をいたします。(2) 諸報告についてであります。事務局ありますか。

局長

まずは、皆さんから先日の加茂市田上町の教育委員懇談会に出席いただきました。ありがとうございます。お疲れ様でした。有意義な会になったのではなかろうかなと思っております。来年度、田上の番になりますので、またよろしく願いいたします。

報告ですが、毎年いただいておりますが、小柳建設さんの方から図書カードのご寄附をいただきました。小学校、中学校 1 校あたり 1 万円と保育施設の竹の友幼児園とルーテル幼稚園の分ということで、2 施設それぞれ 1 万円、合計で 5 施設 5 万円分の図書カードを今年もいただきました。

それから、文化祭の展示の部が終わりまして、10 月の 11 日から 15 日の間で 5 日間実施いたしました。この後、来月になりますけれども、17 日の日曜日に文化祭の芸能の部を実施予定でおります。それと、この週末といいますか、次の日曜日なんですけど、佐藤杯町内駅伝競争大会がございます。急に、衆議院の選挙と重なることになりましたが、なんとか庁舎内の人間のやりくりができましたので、予定通り実施ということで、今準備しております。参加チームは 6 区間、それから 3 区間を合わせまして、全部で 25 チーム出場予定ということになります。内訳を言いますと、6 区間が 23 チーム、3 区間が 2 チームです。

報告は以上であります。

教育長

ありがとうございました。今ほど報告がありましたが、ご質問いかがでしょうか。

報告が終わりましたけれども、皆さんの方からはいかがでしょうか。

なければ、第10回の定例会を閉会いたします。ありがとうございました。